

# poco a poco

パラグアイ便り 2023/05/01 Número3

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

こんにちは。任地へ到着して2ヶ月が経ちました。気付かないうちに無理をしていることが多かった一ヶ月目とは打って変わり、ずいぶんこの地での生活に慣れてきた気がします。変わらず、毎日次から次へと試練は襲いかかってきますが「まあ、こんなものだよな。」「仕方ないよね。」と割り切れるようになったことが増えました。自分の力ではどうにもならないことに対しては潔く諦め、パラグアイの家族や同僚、日本の家族や友人、世界中で活動している同期の隊員たちにひたすら話を聞いてもらっています。そのおかげで「できることから始めよう!」と活動においても生活においても、前向きな気持ちで多くのことに挑戦することができました。パラグアイの方々からのお誘いはすべて『行きたい!』と元気よく答え、流れに身を任せることを楽しめる余裕が出てきました。

## 【パラグアイと日本の学校の違い】

“子どもたちの笑顔が本当に可愛い”という共通点を除くと、パラグアイと日本の学校には、数え切れないほどの相違点が存在します。二ヶ月生活していると、“これが当たり前”という認識が変わってきましたが、忘れないうちに今日は“違いを5点”紹介しようと思います。

1点目。雨が降ると子どもたちは基本的に学校に来ないことです。これは単に“習慣だから”というだけでなく、家が遠いから、バイクや車で登校するのに道が危ないからなどの理由もあるそうです。教員は出勤します。

2点目。学校が二部制で運営されていることです。地域によっては、一部制の学校もあるようですが、国で統一されていない点も含めて、日本との大きな違いを感じました。私の配属先の学校では、午前(7:00~11:00)と午後(12:45~16:45)で子どもたちが入れ替わり、授業が行われています。また夜には成人対象の授業(18:00~20:00)が行われているそうです。先生方は毎日午前午後と働く先生、午前か午後のどちらかだけ働く先生、特定の曜日限定で働く先生・・・と、様々です。私のように毎日午前午後と働く先生は、一度帰宅し、昼食をとってから再度出勤します。私もお昼休憩は帰宅して、昼食、掃除、洗濯を手早く済ませています。

3点目。教室に時計がないことです。学校によって違いはあるかもしれませんが、私の配属先の学校には、時計を置いている教室は1つしかありません。また、授業の前後に、チャイムなどによる合図や授業の挨拶はありません。時間割は決められているものの、授業の開始時刻や終了時刻は各担任の先生の裁量に委ねられています。ただし、午前にある朝食の時間、午後にあるおやつ時間の前後にだけは手動で鳴らすチャイムの合図があります。



いつもは子どもたちが野良犬や野良猫たちとも元気に遊び回り、楽しそうな声が聞こえてきますが、雨の日の学校はとにかく静かで寂しいです。野良猫も、どこか寂しそう。。。





4点目。学校に持ってきて良い物の種類が多いことです。日本の学校では禁止されているお菓子、ジュース、おもちゃ、アクセサリや髪飾り、スマートフォン等です。休み時間だけでなく、授業中でも棒付きキャンディをくわえている姿などを見かけることも多々あります。“とにかく自由”という印象が強いです。



カラフルなお菓子やおもちゃ



ビンゴカード1枚毎にお金が必要なビンゴ大会。一位は賞金がもらえます。集めた参加費で地域の公園を修繕するそうです。

5点目。先生方の副業が禁止されていないことです。教員の仕事だけでは、生活していくのに必要なお金は足りないそうです。そのために副業をしている先生は多くいます。特に雨の日は子どもたちが来ないので、同僚にアイスクリームやパン、首都で買い付けた服を売るなどして、学校が商売の場に変わることもあります。



雨の日に学校で売られていたお菓子

### 【ひとこと】

“教育の在り方とは何か”を考えさせられる機会に遭遇することがあります。些細なことではありますが、例えば靴紐を結ぶことやペットボトルキャップの開け閉めをすることについてです。パラグアイに来てから何度も、子どもたちにやってほしいと頼まれることがあります。時には高学年の子たちでさえ助けを求めてきます。そんなとき私を含めた多くの日本の先生方や保護者の方々は“子どもたちが困らない将来”を見据えて「靴紐の結び方」や「キャップを開けるコツ」を教えるのではないのでしょうか。でも、ここパラグアイでは“子どもたちが困っている今”を見つめて、大人たちが手を貸してしまいます。それこそが優しさであり、愛情表現の1つであると言えるのかもしれませんが。ただ私としてはやはり“子どもが自分の力でたくましく生きていける将来”のために、できることをしたいという気持ちが捨てきれないのです。こういった些細な違和感や疑問と向き合う時間も大切にしながら、自分のペースで活動を続けていこうと思います。

